計画書作成日　2022年 ４月 20日

　　　　　　　　申請者所属・氏名：○○学プログラム・放送太郎

1. 研究の名称

不登校児の母親における子供との○○とその要因に関する研究

1. 研究の実施体制

## 研究責任者（所属・職名・氏名）

放送大学大学院文化科学研究科○○プログラム・修士課程・幕張花子

## 研究分担者（所属・職名・氏名）

## 研究指導担当教員（所属・職名・氏名）(※研究責任者が本学学生で指導教員が研究分担者でない場合)

放送大学大学院文化科学研究科○○プログラム・教授・放送太郎

1. 研究の目的及び意義（研究の背景に関する説明も含む）

　○○によれば、不登校児は、母性原理の優位に飲み込まれながらも父性原理を確立するという課題に取り組んでおり、母親も母性原理と葛藤をしている。○○による母親の変容過程に関する先行研究では○○概念が示され､○○であることが明らかになっている。しかし、○○を獲得する過程で具体的にどのような体験がなされるかについては考察されていない。そこで本研究は、子どもとの○○とその構築過程を明らかにすることを目的とする。母親における子どもとの○○の実態とその獲得プロセスが明らかになることは、閉塞感からの打開の一助となる可能性がある。

1. 研究の方法及び期間

## 実験・調査の方法あるいはデータ収集の方法

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

Facebookの不登校の親のグループにて調査への参加を呼びかけ、併せてスノーボールサンプリングにより研究対象者の紹介を受ける。説明後同意を得た研究対象者に対し、Zoomにて半構造化インタビューを１人に２回実施する。調査には､研究対象者の同意を得てZoomの録音・録画機能を用いる。面接時間は60分～90分､延長する場合は最大120分までとする。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

Facebookの不登校の親のグループに投稿する形で調査への参加を募る。無記名によるGoogle Formsを利用したオンライン調査とする。

## 研究デザイン

*（Zoom等による面接の場合：）*修正版グラウンデッドセオリーアプローチ（M-GTA）による質的記述的方法

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*横断研究デザイン

## 実験・実査のスケジュール

倫理審査承認後○～○月にかけての3週間に、クラウドソーシングサービス（サービス名）を通して募集した研究対象者に調査を実施する。ただし、実査終了時期は、回答者数の状況により１ヶ月程度延長する可能性がある。

## 研究終了期限（分析、執筆、公表作業の終了時期を含む）

20××年3月31日を研究終了期限とする。

※学術集会での発表や学術雑誌への論文投稿などを計画している場合は、その執筆・投稿作業や査読にかかる期間を含めて設定すること。

## 研究中止基準

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

インタビューの際、30分程を目安に休憩を挟みながら実施するが、面接実施中に研究対象者の心身にネガティブな影響が見出されたときには、研究者の側から直ちに研究を中止し、カウンセリングが可能な専門家へ繋ぐなど、速やかに必要な対応を行う。また、研究対象者が、面接途中であっても答えたくない、語りたくない気持ちになった場合には面接を中断し、インタビューを中止する。かつ、研究対象者が希望した場合は直ちにデータを廃棄する。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

自由意志による回答のため該当しない。

## 測定項目・データ収集項目・評価項目 *（Zoom等によるインタビューの場合：）*

具体的な項目はインタビューガイド（資料１）を参照のこと。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

具体的な項目は調査票（資料１）を参照のこと。基本属性（性別､子どもの人数）、不登校の心理過程である先行要因・情報（初めて知ったタイミング・きっかけ、印象に残った内容）、子供との心理的距離感尺度、現在の精神状態、生活満足度について調査を行う。

## 分析方法

*（質的研究の例：）*録画・録音内容を書き起こし、作成したトランスクリプトを分析対象とする。方法は、M-GTAの手法に則り構造分析を行い、対象の意思決定に関する思いを主軸としたプロセスを明らかにし、プロセス図を作成する。

*（質問紙調査の例：）*回答データセットより単純集計､スチューデントt検定､一元配置分散分析による二変量間の検討ならびに、一般線形モデルによる重回帰分析を行う。分析には統計解析ソフトIBM SPSS statistics 21を用いる。

1. 研究対象者の選定方針

## 研究対象者の選定基準・除外基準について

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

○歳以上○歳以下の母親のうち、以下の選定基準および除外基準に従って研究対象を決定する。研究対象者はクラウドソーシング（サービス名）によって募集する。

＜選定基準＞

1. 過去、または現在、不登校児を抱えていた経験を持ち、今現在親子関係の葛藤から抜け出せていると自身が感じている母親
2. 研究調査者の知人、もしくはカウンセリング関係等の専門的な関係を持っていない方
3. Zoom実施の環境があり、操作に負担感のない方

＜除外基準＞

１．現在葛藤のさなかであると感じている方。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

Facebookのおむつなし不登校の母親グループに参加している250名のうち､現在または過去に不登校児を抱えていた経験がある方を対象とする。

## 予定研究対象者数及びその設定根拠

*（質的研究の例：）*サンプルサイズは10～14名とする。ただし、M-GTAによる理論的サンプリングを行う。

*（質問紙調査の例：）*本研究は観察研究であるため、サンプルサイズは、多変量解析を実施する場合に必要な説明変数の数（約10）×10以上であることとした。

1. 研究の科学的合理性の根拠

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*※Zoom等による調査を選択した理由を端的に示すこと

本研究は、研究対象者の「距離感に関する経験」をその成り立ちから探求することを目的としているため、M-GTAによる質的記述的方法は妥当である。また、30～40歳代のFacebookユーザーが中心であり電子端末使用方法について一定の理解があることから､Zoomを用いたインタビューはアクセシビリティやユーザビリティの観点から適切であると判断した。インタビューガイドはリサーチクエスチョンに即した構成となっており、研究実施にあたり妥当な内容となっている。本研究は、研究責任者の修士論文に資する研究として実施し、研究指導責任者である放送大学教員が指導するという研究体制を取っており、定められた期間内に研究成果を挙げることができる。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*※Google Forms等による調査を選択した理由を端的に示すこと

本研究は、対象者の実態を明らかにすることを目的とするものであり、量的研究は妥当な方法である。研究対象者は子育て中であることが多いため、パソコンまたはスマートフォンから手軽に回答できるGoogle formsを使用したオンライン調査は最適である。調査項目は、○○・○○・○○等のそれぞれに関する項目から成り、これらは研究目的の達成において必要な項目である。本研究は、研究責任者の修士論文に資する研究として実施し、研究指導責任者である放送大学教員が指導するという研究体制を取っており、定められた期間内に研究成果を挙げることができる。

1. インフォームド・コンセントを受ける手続き等

*(Zoom等によるインタビューの場合：)*

研究対象者にメールまたはMessengerアプリで説明文書を送付する。研究対象者は添付された説明文書を読み、添付された同意文書に署名をし、スキャン・撮影したファイルをメールあるいはMessengerアプリ添付して研究者に送ることとする。（または、「説明文書・同意文書を対象者に郵送し、署名した同意書を研究者に郵送することとする。」なお、侵襲がない研究の場合は対面時の口頭での同意、またはメールに対する返信による同意でもよい）研究対象者の主体が30～40歳代のFacebookユーザーであり、参加連絡および紹介を受けたのちMessengerアプリおよびメールアドレスによりやり取りを行うことになることから､本方法は研究対象者にとって負担感のない方法である。（手続き方法を選択した理由を具体的に記載すること）

説明文書には問い合わせのための連絡先を明記し､研究対象者が同意するにあたり質問をする機会を保証する。またインタビューの開始にあたっては、説明文書に目を通し同意を示した本人であることについて、口頭で必ず確認する。本調査は侵襲がなく､Zoomによる同時双方向のやり取りを行うものであるため､本人確認の方法は妥当である。（本人確認の方法を選択した理由を端的に示すこと）

※(軽微な)侵襲がある研究の場合には、写真入りの身分証明書等で本人確認を行う。プライバシーに関する情報が入っている場合があるため、その部分の録画はしない。隠して提示してもらうなどの配慮をすること

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

説明文書が掲載された説明画面にアクセスできるようweb画面をレイアウトし、回答を始める前に説明画面に目を通すことを促す。また､説明画面をダウンロードないし印刷して手元に置くことを促し､調査終了後も目を通すことができるようにする。回答を始める前に､説明文書に目を通したうえで調査に参加することを確認するためのチェックボックスを設け､チェックが入っている場合に調査への参加を同意したとみなすこととする。

説明文書には問い合わせのための連絡先を明記し､研究対象者が同意するにあたり質問をする機会を保証する。なお､無記名で実施するため､回答後に回答内容の修正や参加の取り消しの申し入れがあっても対応できないことについて､説明文書に明記する。

※要配慮個人情報（健康・信教・刑罰歴等）に関わる回答を求める調査の場合は必ず同意を確認するためのチェックボックスを設けること

1. 個人情報等の取り扱い

## 個人情報への配慮

本研究にかかわるすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」ならびに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（あるいは基準とした指針をここに明記）を遵守して実施する。研究実施にかかわる情報を取り扱う際は、研究独自の番号を付して管理し、研究対象者のプライバシーにかかわる情報保護に十分配慮する。研究の結果を公表する際は、氏名、生年月日などの直ちに研究対象者を特定できる情報を含まないようにする。また、研究の目的以外に研究で得られた研究対象者の情報を使用しない。

## 仮名加工情報又は匿名加工情報を作成する場合にはその方法

*(Zoom等によるインタビューの場合：)*

取得したインタビューデータを整理する際、対象者は事例１、事例２とし、またデータ内の固有名詞はアルファベットに変換して匿名加工情報を作成し、語りの内容については、分析・解釈に影響を与えない範囲で必要時に変更を加える。

※対応表を作成するなど、個人を識別できる記述を削除や置き換えることにより加工した情報を使用する場合は、「匿名加工情報」ではなく「仮名加工情報」となる。

〈参考〉匿名加工情報と仮名加工情報の違い

・匿名加工情報…個人情報を特定の個人を識別することができないように加工して得られる個人に関する情報であって、その情報を復元して特定の個人を再識別することができないようにしたもの（作成の元となった個人情報の復元につながる情報を保有してはならず、対応表は破棄しなければならない）

・仮名加工情報…他の情報と照合しない限り特定の個人を識別することができないように加工された個人情報（本人識別目的での他の情報との照合、第三者への提供、元の個人情報に係る本人への連絡を行う目的での利用が禁止されている）

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

無記名によるオンライン調査につき非該当。

1. 研究対象者に生じる負担並びに予測される利益・リスクと対策

## 研究対象者に予測される利益

不登校児と母親の心理的距離感の新たなバランスの確立の方向性が見出されたならば、研究による報告の蓄積により、同じ葛藤のさなかにいる母親、不登校児、両者に共有され、閉塞感からの打開の一助となり得る。

## 研究対象者に生じる負担と予測されるリスク

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

1. インタビューにかかる時間の身体的負担が生じること、および語りの中で辛い記憶の想起によるネガティブな心理的負担が生じる可能性があること
2. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの事態が生じること
3. 自宅などプライベートの場でZoomを使用する場合､部屋の様子、子供の声、騒音､その他個人を特定するものなど、本来映ってほしくないものが映りこむ可能性があること

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

1. 質問紙への回答に20分ほどを要するため、その時間において身体的負担が生じること
2. 子が不登校になってから今までについて思い出して記載してもらう形をとるため、心理的な負担が生じ体調が悪くなる可能性があること
3. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの事態が生じること
4. 悪意を持った第三者によるインターネットを通じた攻撃により､回答情報が漏洩する可能性があること

## 負担・リスクを最小化する対策

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

1. インタビュー時間の身体的負担や辛い記憶の想起などによりネガティブな影響が見られた際は、直ちに休憩を取るか、インタビューを中止するなどの対応をする。必要な場合はカウンセリング機関へつなげる準備をし、その旨を研究対象者に伝えておく。インタビューにて､研究対象者が話したくないことは話さなくてよいこと、いつでも研究参加の同意を撤回でき録画した動画や音声は削除できることを､インフォームド・コンセントの際に伝える。
2. 疲労感が大きく中断した場合、残りのインタビューは別途実施することが可能であることを事前に伝える。
3. 携帯電話の番号を両者で事前に共有しておき､通信環境や操作においていわゆる「落ちる」など途切れる事態があった場合に対処する。対応時間が大幅にかかる場合には別途日程調整を行えるよう､調査期間に余裕を設ける。また､ Zoom の操作で不安を与えないよう､あまり機能を使いすぎない。
4. プライベートの場で面接に協力する場合は､見られたくないものが映り込んでしまわないよう､事前に注意を促す。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

1. 説明文書に回答時間の目安（20分程度）を示し、余裕があるときに回答するよう促す。
2. 説明文書に回答はあくまでも自由意志であること、および不明な点がある場合の連絡先を明記し､公明性に努める。
3. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの場合は、時間をおいてから改めて機器を立ち上げ直し指定のサイトにアクセスすることを説明文書に明記する。
4. Google Formsでは回答データはSSLにより暗号化されて送信される。Google上のデータは常時SSL化されているなど一定のセキュリティが維持されている。回答されたデータセットは､研究者以外の目に触れないように研究責任者が責任をもって管理する。Googleアカウントについて定期的にパスワードを変更してセキュリティの維持を心掛ける。
5. 試料・情報（研究に用いられる情報に係る資料を含む。）の保管及び廃棄の方法

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

Zoomクラウド上の録音・録画データは､データをダウンロードしたのちに削除する。ダウンロードした録音・録画の記録データは、インタビュー終了後直ちに外部記憶媒体へ移行して自宅の鍵付き棚に保管し、研究終了後は直ちに外部記憶媒体を破壊する。トランスクリプトや研究に使用したメモなどの資料は、電子データはインターネットから遮断した外部記憶媒体にて、紙資料はそのまま、研究終了後10年間鍵付き棚にて保管する。管理期間終了後、外部記憶媒体は破壊し、紙媒体のデータはシュレッダー等にて完全に廃棄する。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

Googleクラウド上のアンケートの回答データは､ダウンロードしたのちクラウド上のデータを削除する。ダウンロードした回答データは、直ちに外部記憶媒体へ移行して自宅の鍵付き棚に保管し、研究終了後は直ちに外部記憶媒体を破壊する。トランスクリプトや研究に使用したメモなどの資料は、電子データはインターネットから遮断した外部記憶媒体にて、紙資料はそのまま、研究終了後10年間鍵付き棚にて保管する。管理期間終了後、外部記憶媒体は破壊し、紙媒体のデータはシュレッダー等にて完全に廃棄する。

1. 研究機関の長への報告内容及び方法

研究責任者は研究機関の長の求めに応じ以下の報告を行う。

1. 研究の進捗状況
2. 研究の倫理的妥当性若しくは科学的合理性を損なう事実若しくは情報又は損なうおそれのある情報であって研究の継続に影響を与えると考えられるものを得た場合
3. 研究の実施の適正性若しくは研究結果の信頼を損なう事実若しくは情報又は損なうおそれのある情報を得た場合
4. 研究が終了(停止・中止)した場合
5. 研究に関連する情報の漏えい等､研究対象者等の人権を尊重する観点又は研究の実施上の観点から重大な懸念が生じた場合
6. 研究の資金源と利益相反

## 研究の資金源等

なし

## 研究者等の研究に係る利益相反

なし

1. 研究に関する情報公開（公表・登録を含む）の方法

研究対象者の求めに応じ、他の研究対象者の個人情報の保護、研究の独創性の確保を前提とした上、研究計画書および研究方法に関する情報について開示を行う。その旨を説明文書内（資料2）に示した。本研究は放送大学修士論文として発表する予定である。また、日本○○学会、日本○○学会で発表する予定である。

1. 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応

説明文書末尾にて連絡先提示の上、研究対象者からの相談に応じる。

1. 次の各項目について該当の有無を回答してください（□にチェック）  
   該当する場合は内容・対応を具体的に記載してください
2. 緊急かつ明白な生命の危機が生じている状況での研究実施について、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の第12の６にある実施要件の全てを満たしていることについて判断する方法

該当しない　　該当する⇒具体的方法：

1. 研究対象者等に経済的負担又は謝礼がある場合には、その旨及びその内容

該当しない　　該当する⇒具体的内容：研究対象者に謝礼として図書カード

1. 侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究の場合には、重篤な有害事象が発生した際の対応

該当しない　　該当する⇒具体的対応：

1. 侵襲を伴う研究の場合には、当該研究によって生じた健康被害に対する補償の有無及びその内容

該当しない　　該当する⇒具体的内容：

1. 通常の診療を超える医療行為を伴う研究の場合には、研究対象者への研究実施後における医療の提供に関する対応(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針第6の6(4)参照)

該当しない　　該当する⇒具体的対応：

1. 研究の実施に伴い、研究対象者の健康、子孫に受け継がれ得る遺伝的特徴等に関する重要な知見が得られる可能性がある場合には、研究対象者に係る研究結果（偶発的所見を含む。）の取扱い

該当しない　　該当する⇒具体的に：

1. 研究に関する業務の一部を委託する場合には、当該業務内容及び委託先の監督方法

該当しない　　該当する⇒具体的内容・方法：

1. 研究対象者から取得された試料・情報について、研究対象者等から同意を受ける時点では特定されない将来の研究のために用いられる可能性又は他の研究機関に提供する可能性がある場合には、その旨と同意を受ける時点において想定される内容

該当しない　　該当する⇒具体的内容：

1. 侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究であって介入を行うものを実施する場合で、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の第21にあるモニタリング及び監査を実施する場合には、その実施体制及び実施手順

該当しない　　該当する⇒具体的内容：

16．その他

＜文献＞

以下略

以上